

新宮山彦ぐるーぷ第1876回
モノレール駐機小屋第三次組立工事と
次回行事(熊野修験奥駈行)荷上げと旧通信道最終点検補修

◇実施日：平成28年5月22日(日) 薄曇後晴

◇参加者：児嶋道夫、山上皓一郎、生熊敏男、根本俊明、川島 功

沖崎吉信、濱野兼吉、畑林秀味(先発)、梶野照雄。

(後発)玉岡憲明、玉岡 明。 11名。

新宮7時前に沖崎宅前に集合し、児嶋車(川島氏同乗)と沖崎車(山上・根本・生熊・濱野・畑林氏同乗)で走行し、登山口に8時半頃に到着。

生熊氏がモノレールを下ろしに駐機地に上るが、セメント下のキーが見つけられず、漸くしてモノレールが下りて来る。

駐機小屋組立は、児嶋・川島・根本・生熊氏が担当し、他のメンバーは、熊野修験奥駈行(28日行仙宿泊)接待の食料等の事前荷上げと笠捨山撒き道(旧通信道・電源の鉄塔巡視路)の最終点検整備をして頂く事になった。

モノレールで荷上げ物資を運び上げてから、組立工事の資材と電気機器等を積み下りると、梶野氏が到着し小屋組立に加わる。



前回迄の組立状況

小屋の支え支柱を締結

足場上でトタン打ち

30度近い傾斜地での駐機小屋組立のため、屋根トタンの釘打ちに、パイプ支柱に足場を乗せる短管をクランプで固定し、アルミ足場板を乗せ、ロープ及び番線で固定する。
駐機小屋は、上下の屋根巾が少し異なることから、一枚ずつ屋根に乗せて、マジックで印を付けて、鉄切断刃の電鋸で切る。
一枚切って、次を切っている時に引っ掛り止った後、電鋸が動かなくなり、波板用トタン切鋸で切る。



谷・前両足場上で作業

支柱固定のパイプ打込み

電鋸で波トタン切り

前側足場に梶野氏、後(谷)側足場に川島が乗り、笠釘でトタンを打付ける。その後、電鋸が使えるようになる。



作業検分の玉岡相談役

先端をサンダーで切揃え。

ソーラーパネル設置

児嶋・生熊氏は、支え支柱を固定する短い単管パイプを打込むが、岩に突き当たり何箇所か試みるがダメな様で、パイプ先端をつぶして打ち込む作業を1時間強かけたが固定する事が出来ず、次回は鉄筋あるいはセメントで固める事にする。

10時45分頃に玉岡さん親子が検分に来られる。

トタン6枚できつちり収まり、両端を再度揃えるため、サンダー刃で前側生熊氏、後側(谷)梶野氏が安全帯を付けて切断し、トタン屋根が完成した。

児嶋氏バッテリー充填のためのソーラーパネルを屋根に取付け作業を始めるが、11時45分なので中止し昼食とする。



昼食後ハイ！ポーズ



壁張り支障の木株ハツリ



行仙宿班下山合流

昼食後、児嶋さんはソーラーパネル取付け作業。他の人は、谷側の壁を張る角材を支柱パイプに番線で付ける作業へ。

下端の角材は、番線不足で固定出来なかつたが、トタンを張るとクランプのネジ端が角材幅より大きく、横の支柱単管パイプを外側から内側に変えて締結。又、古木切株がトタンを張る際、支えるので根木さん鋸とヨキで支障無い様にハッて下さる。又、次回作業する際に、下端支柱パイプにアルミ足場を取付けた。

13時半頃、壁用トタンも無く本日の作業は略終了。

梶野氏は、行仙宿のバッテリー充電器修理と青木氏寄贈の補強したテーブルをモノレール終点に組立設置するために行く際に、

玉岡さんもモノレールに試乗され、終点から歩いて下山。

児嶋氏は、前側にトタン壁を張る時に支障となるクランプのネジ端と単管パイプをサンダーで切断、すごい火花が飛び散る。

行仙宿班が14時前に下山合流し、児嶋氏の作業を見守り14時10分作業終了。



パイプ端切断の火花



喫茶「児嶋車」を囲んで



終点のテーブル

作業終了後、後片付けしていると車のキーがあり、梶野氏のだらうと安全带と一緒に置いて登山口へ下りる。

喫茶「児嶋車」を囲んでコーヒーと差入れのお菓子で休憩後、帰路に着く直前に、梶野氏が下山して来て「このキー俺のでないよ！」との事、誰のだらう？・・・俺と似たキーが在るなあと思っていた根木さんのキーで在った。梶野氏の下山が間に合つてなかつたら、帰新してからキーが無いと大騒ぎするところであった。

行動タイム

新宮 7:05→8:30 登山口→9:30 駐機組立作業→11:50 昼食 12:20→作業 14:10→14:35 登山口 15:05→16:35 新宮。 (記 川島)

次回行事(熊野修験奥駈行)荷上げと旧通信道最終点検補修

今回はモノレールの駐機小屋組立は、児嶋、川島、根木、生熊の各氏が、熊野修験奥駈行接待の食料等の事前荷上げと笠捨山捲き道(旧通信道・電源の鉄塔巡視路)の最終点検整備の二班に分かれ、荷上組には、山上、沖崎、畑林、濱野が携わる。

荷上組は、モノレールで浦向道分岐下まで荷物を運び、そこから行仙宿まで運び上げる。四名はそれぞれの荷物を背負子に乗せ出発し、途中の第二ベンチで一休みして行仙宿小屋へ。

小屋前のベンチでは、男女2人が休憩をしていて、小屋に誘うが笠捨山に向かうとこのことでは出発する。

荷物を管理棟に入れ、補修用の大玄翁、トンガ、シノ、番線エロープを準備する。

畑林さんは持参したお菓子を行者堂にお供えする。沖崎さんは志納箱から志納金を取り出す。山上さんが見え後のことは山上さんに任せて、私たちは巡視路の点検補修に出掛ける。

巡視路と奥駈道の分岐で標識の設置について、単に時間が短縮するという利便性だけでなく、通る人たちの技術の度合いや本来の目的にあった標識をつけないと、事故や捲き道の崩落による通行不可の場合もありうると、沖崎さんから標識の見解を聞く、全くその通りなのだろう。参詣道や奥駈道の統一した標識等も必要だと私も思っている。スペインのサンディエゴの道は、国を越えて共通の標識らしい。

24番鉄塔まで行き、帰りに2箇所ほど補修する。これで一応完了であるが、大崩れしている所はわれわれ素人では根本的な補修は難しい。概ね巡視路も葛川辻まで整備したが、全く安全といふことでもない、比較すれば時間を掛けても笠捨山を越える方が安全であろう。

本来、南奥駈道の名峰・笠捨山に登ってこそ南奥駈道を踏破したことになるのであって、急ぐなど止む終えない場合以外は、こち

らが正統なので初めて歩かれる方は、奥駈道(笠捨山)へと是非歩いて欲しいものである。

途中まで山上さんが迎えに来られ、沖崎さんから作業の状況を説明して帰路についたが、私たちは遊び心で分岐からもう一つの捲き道(N.022鉄塔)を通るからと、使わなくなった旧道を歩いてみることにした。山上さんは奥駈道に戻り、私たちは近道であるはずの捲き道を辿るが、人が通らなくなった道は消えていて、間伐材が道を塞ぎ結局「急がば回れ」の格言通り、山上さんの方が先に小屋に戻った。

小屋で昼食をとっていると登山者が見え、一緒に昼食をする。彼は補給ルートを下るとのこと、私たちより先に下山。

チェーンソーやゴミを回収して宿泊ノートを見る。水が少なそうな気がするが、今回は利用者にお願する事で小屋を後にする。

先日、行者堂の扁額が気になり、玉岡さんにお聞きすると、「斃而后己(タオレテノチャム)。(たおれるまでやる)」ということとだそうです。修験というのはそこまで厳しいことなのだと思改めて認識し直しました。

下山途中、玉岡さん親子が登って見え、途中から一緒に下山しました。また、梶野氏は行仙宿小屋に行くとのことで登って行かれた。途中のモノレールの駐機小屋の作業進捗状況を見て下りました。

児嶋さんのコーヒート、たくさんのお菓子の差し入れがあり、豪華なおやつで満腹になりました。

行動タイム

登山口 9:10→9:50 行仙宿 10:25→11:00 N.024鉄塔 11:10→12:05 行仙宿(昼食)13:15→13:45 モノレール駐機組立現場。

(濱野 記)